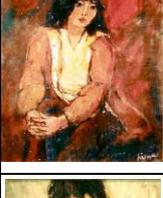
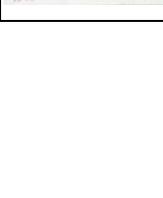
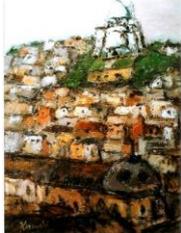
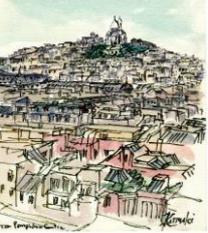


No.	名称		号数	規格	サイズ	制作年	キャプションコメント	もともになったスケッチ
1	セゴビア風景 (スペイン)		10号	F	53.0×45.5	1990	もともになる水彩スケッチは、1988年にスペインを訪れた時に立ち寄ったセゴビアの街で有名な水道橋のわきを上がった高台から描きました。この油絵は、このスケッチにもとづき、銀座詩季画廊で開催した第8回個展のために制作したものです。	
2	紅葉の農工大		10号	F	53.0×45.5	2006	もともになるスケッチは、私が副学長時代の2006年11月に府中キャンパス正門前で描きました。この油絵は、2007年1月に京橋ギャラリーくぼたで開催した「佐藤勝昭・小野隆彦二人展」のために制作したものです。	
3	黄色いセーターの女性		10号	F	53.0×45.5	1982	私がまだNHK技研に努めていた頃に、技研の美術部で定期的に行っていた人物デッサン会で描いた作品です。モデルは、技研にアルバイトに来ておられた女性です。1992年の11月に銀座詩季画廊で開催した第4回個展に出品するために、手を入れました。	
4	赤いブレザーの女性		10号	F	53.0×45.5	1980	NHK技研の美術部の人物デッサン会で描いた女性像です。モデルは視聴科学研究室に映像評価の被検者としてきておられた女性だと思えます。この作品は1980年11月、銀座詩季画廊で開催した第3回個展に出品しました。	
5	街の構図 チューリヒ		10号	F	53.0×45.5	1982	1982年ETHを訪問するするため、スイス・チューリヒの空港からき電車で中央駅に行き、徒歩でチューリヒ湖に向かいました。途中の建物が素晴らしいので思わずスケッチしました。	
6	街角(パリ・トリニテ付近)		20号	M	72.7×50.0	1992	1991年のクリスマス頃、パリでメトロに乗ってトリニテで降り、モロー美術館に行きました。その時描いた街角のスケッチがもともになっています。作品は、1992年11月に銀座詩季画廊で開催した第9回個展に出品するために制作したものです。	
7	煙突のある風景(ニューヨーク)		20号	F	72.7×60.6	1986	1986年のコロラド州スノーマスの国際会議のついでにニューヨークに立ち寄り、マンハッタン島をブイースト川対岸から描いたスケッチをもとに、1986年11月の第6回個展に出品するために描いたのが、この油絵作品です。	
8	時計台のある風景(シアトル)		20号	M	72.7×50.0	1986	1885年ユタ州スノーバードで開催されたアモルファス半導体の会議の後、シアトルに飛んでボーイング社のCIS太陽電池研究者を訪ねた。その時に描いたキングステート駅と摩天楼のスケッチをもとに油絵を制作し第6回個展に出品	
9	湖畔(チューリヒ)		20号	F	72.7×60.6	1982	1982年ETHを訪問するするため、スイス・チューリヒの空港からき電車で中央駅に行き、徒歩でチューリヒ湖に向かいました。チューリヒ湖の湖畔に建つ建物と湖畔の道の緑の調和が素晴らしいと思えました。油絵は、1982年の第4回個展に出品しました。	

10	街の構図 モンマルトル(パリ)		20号	M	72.7 × 50.0	1984年	<p>もとのスケッチは1982年にパリを訪れた際、ボンビドゥセンターから描きました。油絵は、1985年の日府展秋季展(セントラル美術館)に出品しましたが、このサイズは、セントラル美術館の壁面の制限から、全作品20Mタテという制限があったためです。さらに手を加えて、1984年の第5回個展に出品しました。</p>	
11	花の構図(紫陽花)		20号	M	72.7 × 50.0	1982年	<p>この作品は、1982年の9月に日府展秋季展に出品するために制作しました。花を見ながらいきなり油絵で描いたので対応するスケッチはありません。</p>	